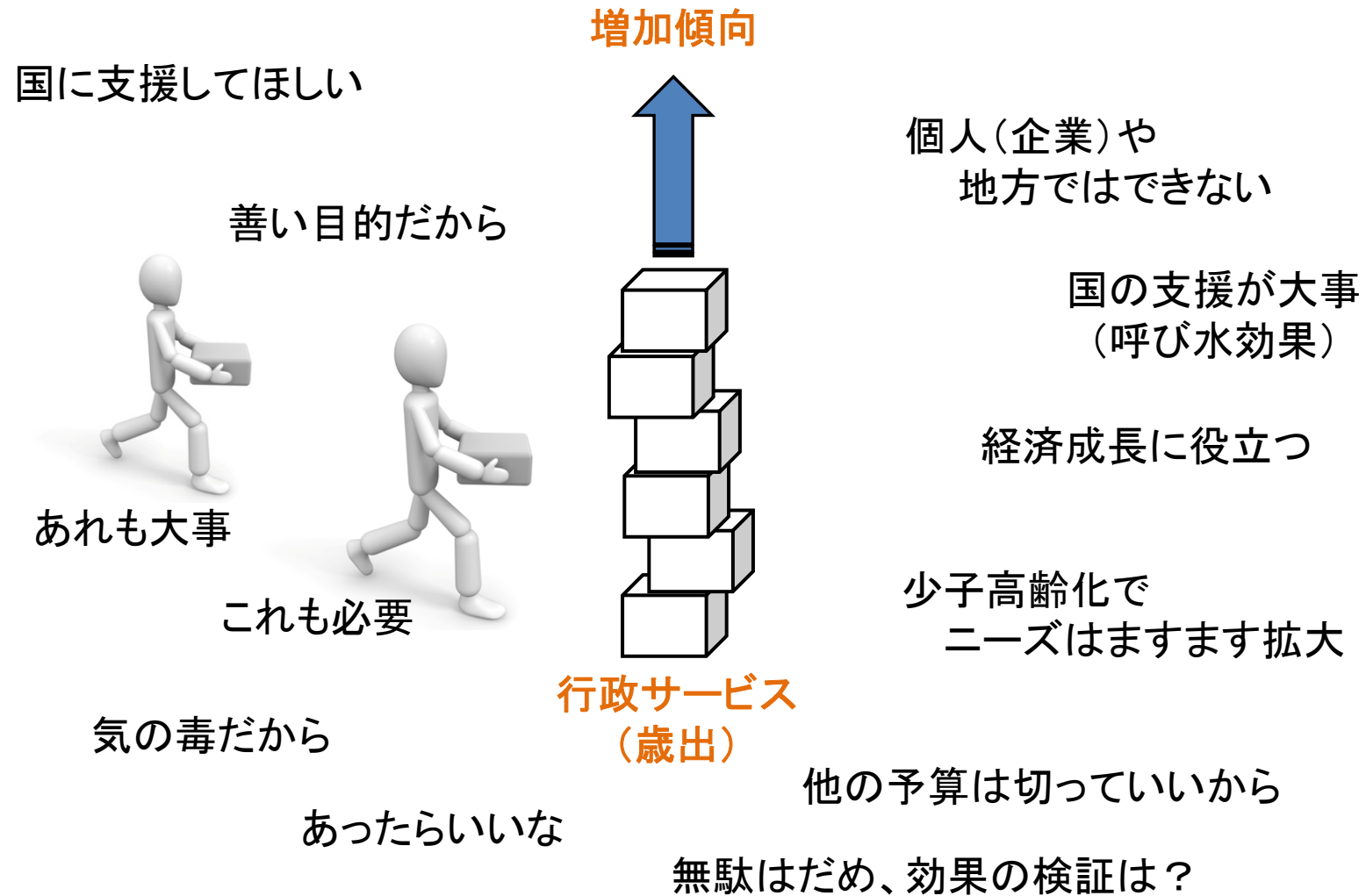
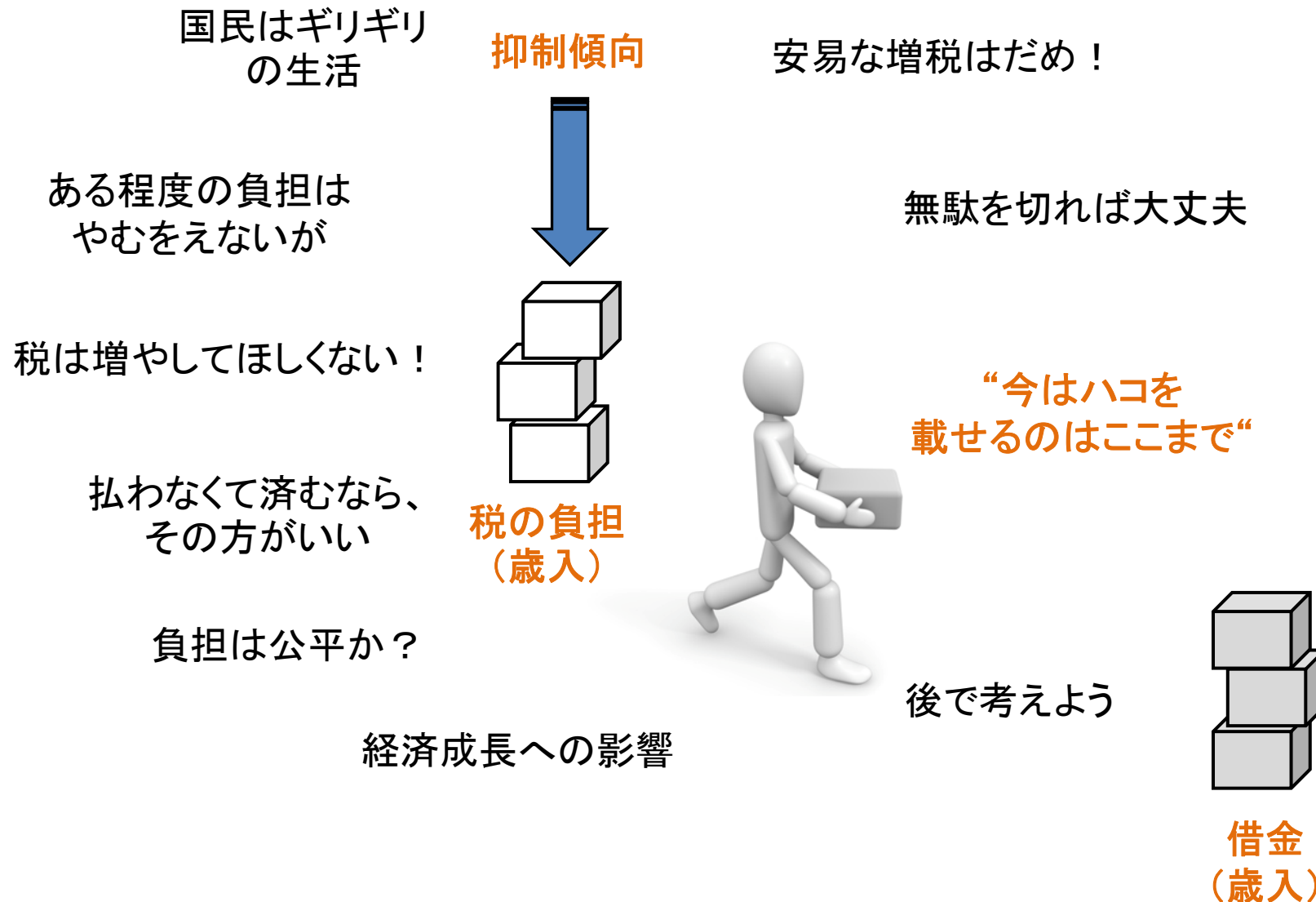


国の事業への要望は？（イメージ）



税の負担は？（イメージ）



プリンシプルのない日本（白洲次郎著）（抄）



日本が今日 世界有数の貧乏国であるということで思い出すのは、毎年々々の国家の予算の審議である。議会は国民を代表しているので、議会は国民そのものだとも言える。

近年 日本の国では政府の提出した予算を議会で増額することが多い様だが、何処の国で国民が政府の支出の増加を決議する処があるか。支出の増額は何かの形に於いて とどのつまりは税金の増加である。国民は税金の増加を希望しているのだろうか。

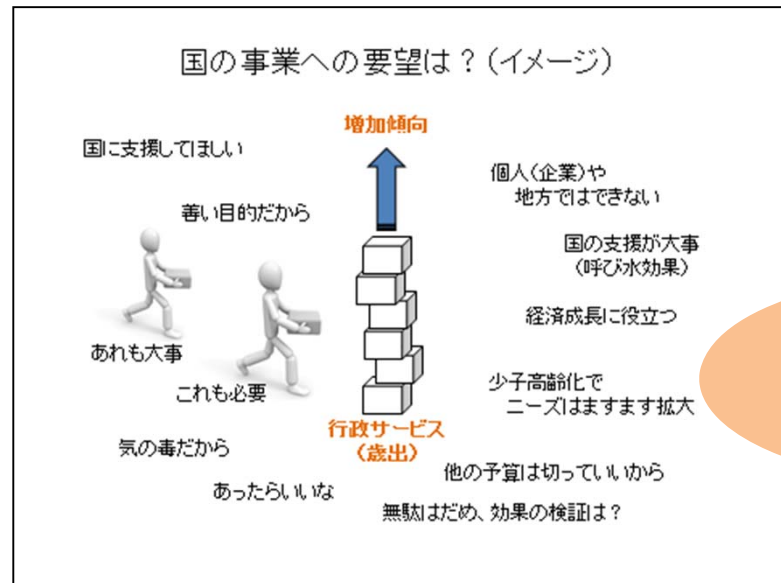
議会は国民なのだから現象は正しくそうである。それとも議会と国民は無関係なのか。吾々の常識では議会は政府の予算を削る処で、増やす処ではない筈だ。

こんなことが平気で起こる所以のものは議員だけが悪いのではない。国民の注視が足りないというのも、日本の国がほんとに破産しているという認識が足りないからではないだろうか。破産しているなけ無しの財布からしぼり出した税金なのだから、もっと関心を持つべきだと思う。

（「文藝春秋」1953年6月号）

2つを合わせて考えるならば・・・？（イメージ）

行政サービス （歳出）



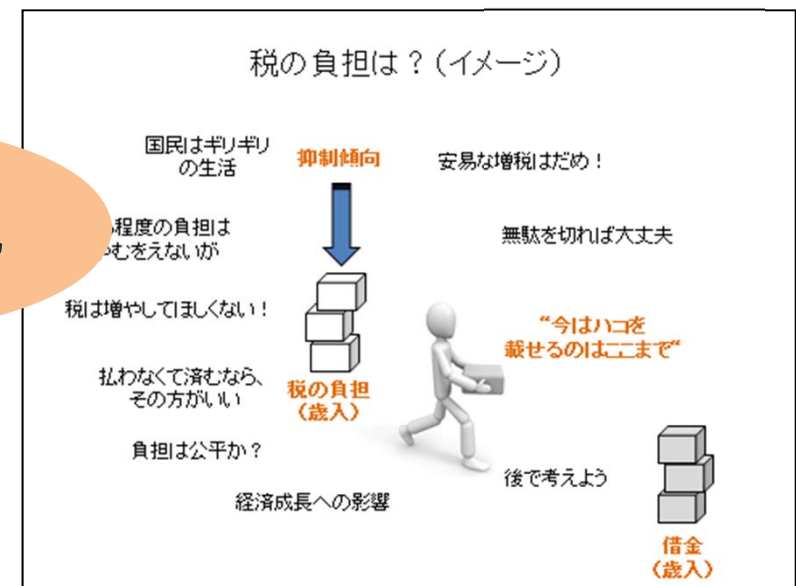
増やせ

本来は拮抗

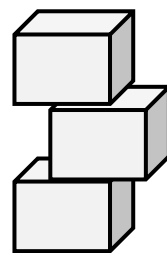
増やすな



税の負担は？（イメージ）



税の負担 （歳入）



借金（歳入）

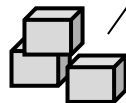
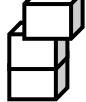
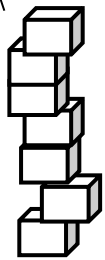
そうならないと

積みり積もって 借金の山(イメージ)

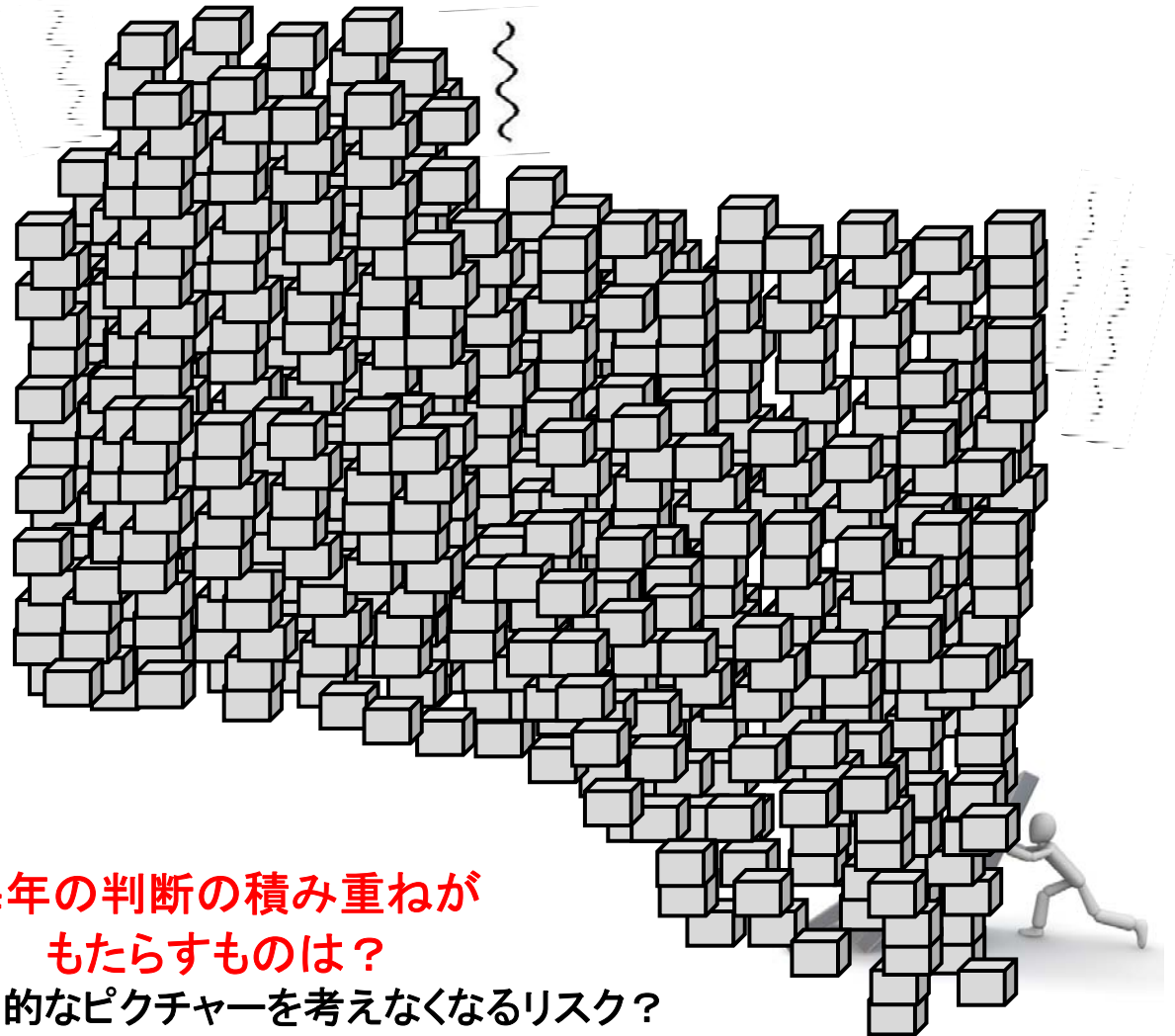
行政サービス
(歳出)

税の負担
(歳入)

借金
(歳入)



積みり積もって...



ちょっと待って
この先どうなるの？

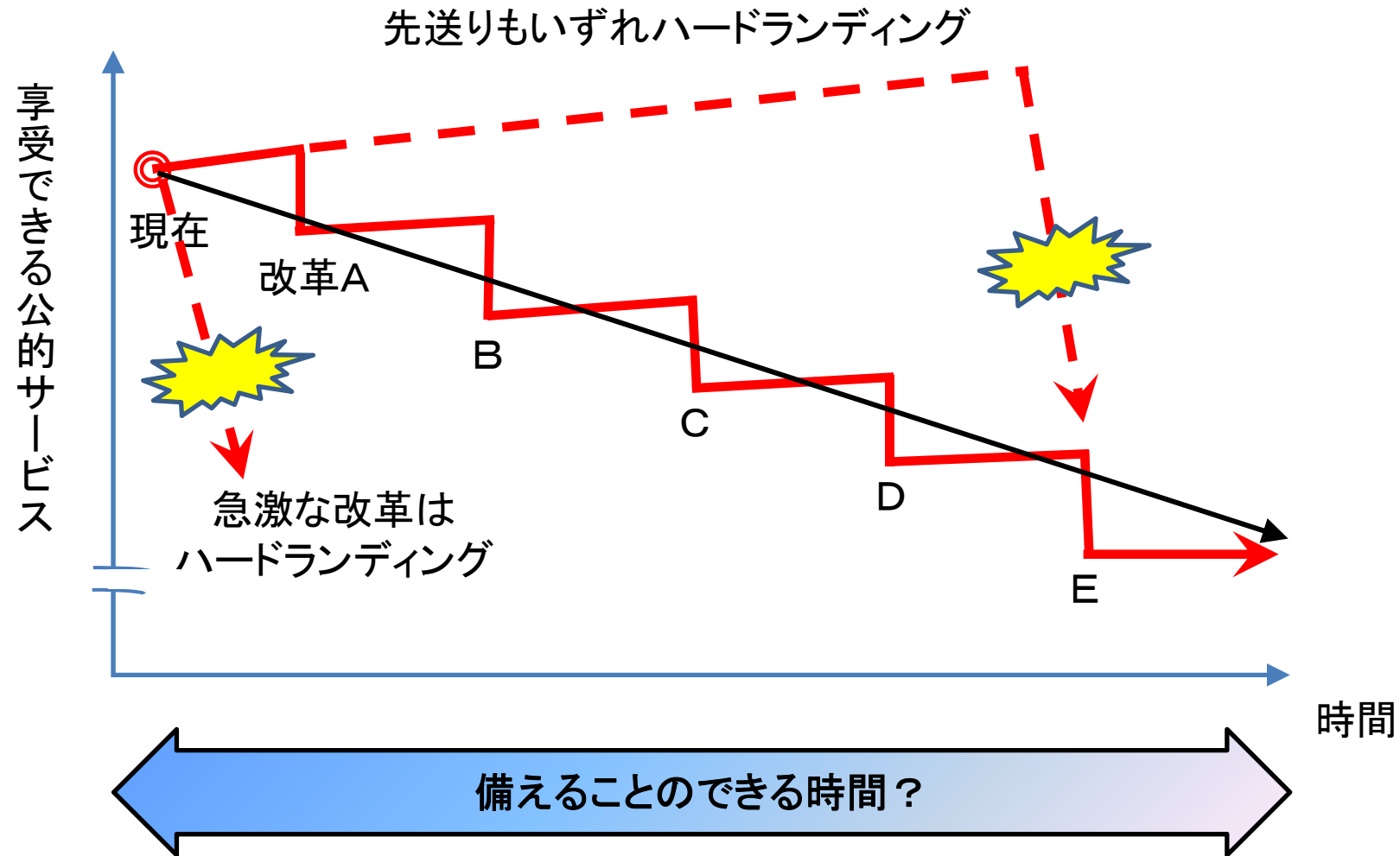


将来世代

毎年の判断の積み重ねが
もたらすものは？

- ✓ 全体的なピクチャーを考えなくなるリスク？
- ✓ このままいくと 国がたちゆかなくなるリスク？

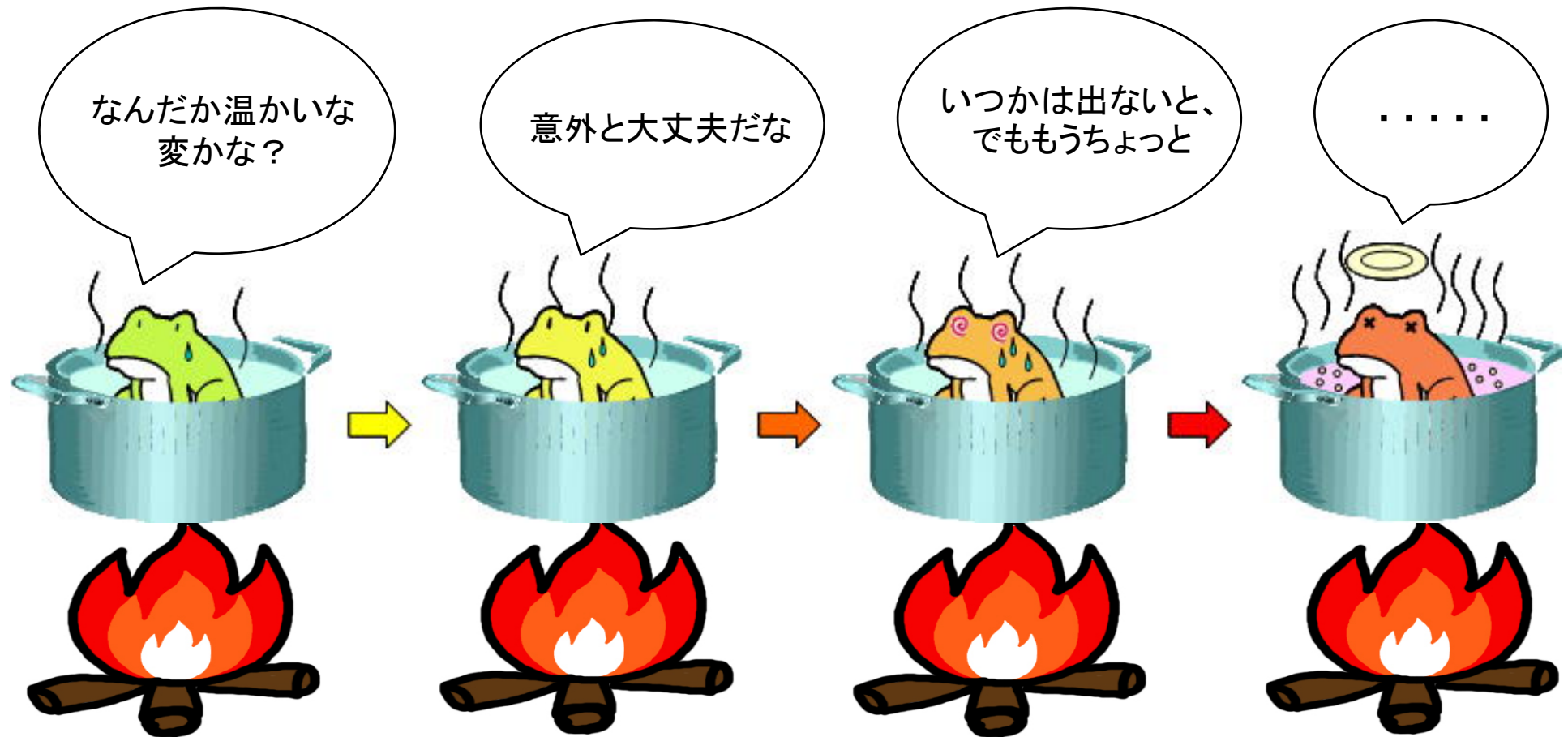
公的サービス改革の将来イメージ



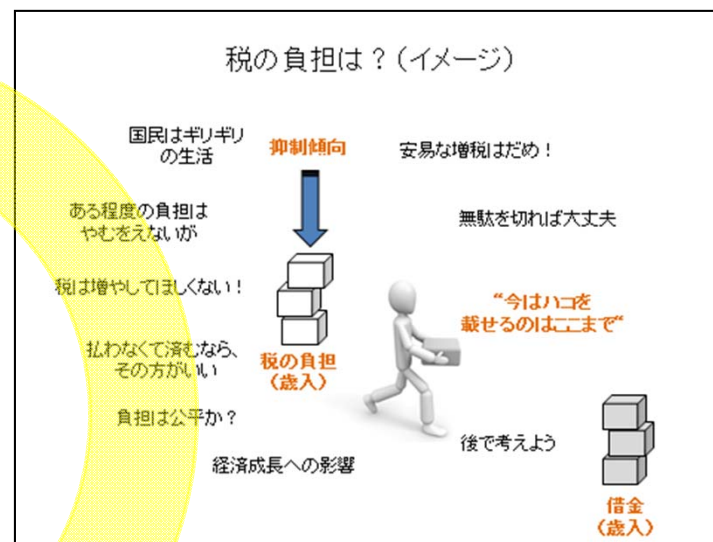
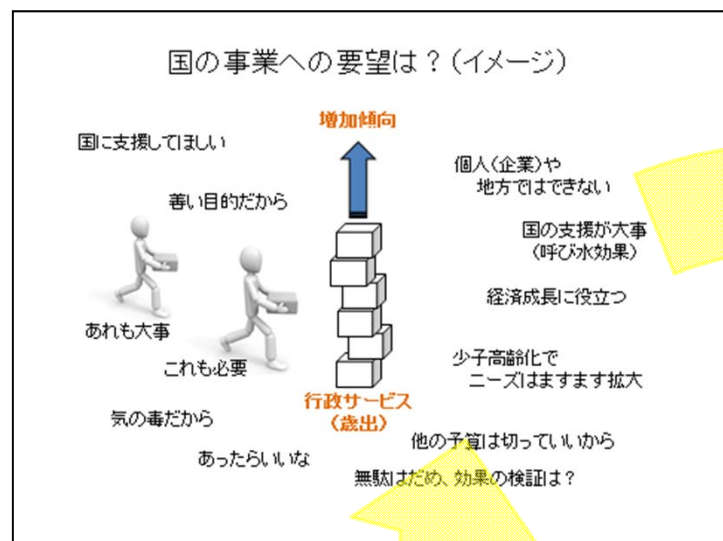
(行政の革新、自助・共助の拡大、技術革新等の模索とともに)

茹でガエル

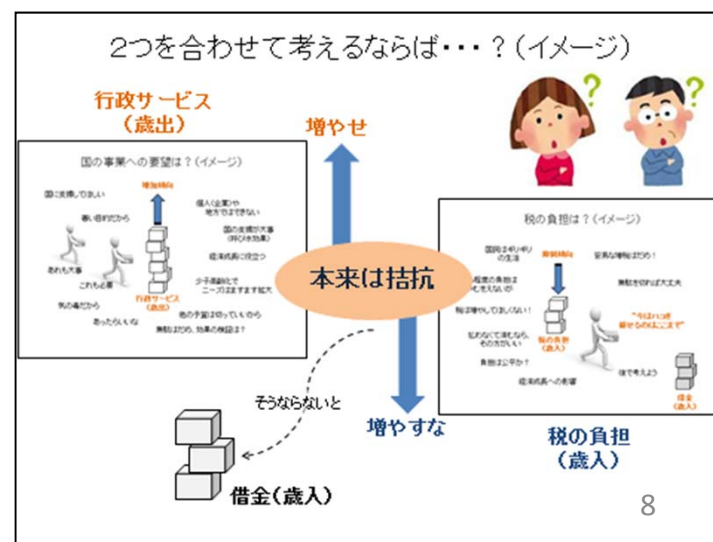
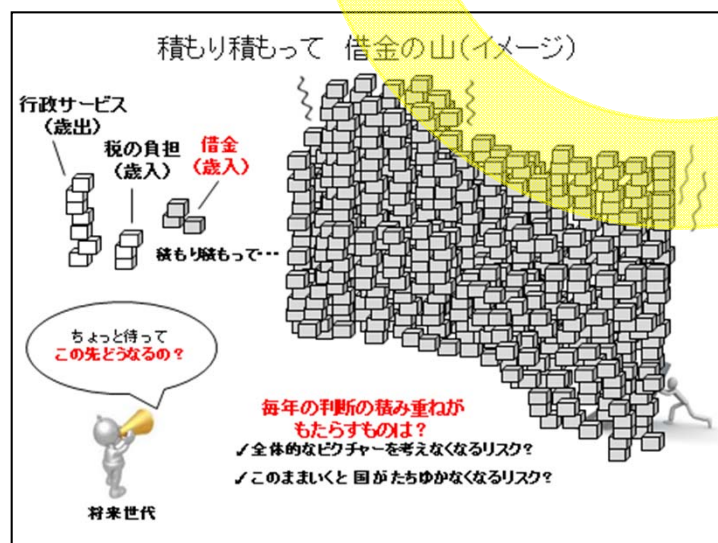
楽観していないけど危機感もない？（イメージ）



“分別思考のループ”をどのように断ち切れればよいのか・・・？



（まだ大丈夫）

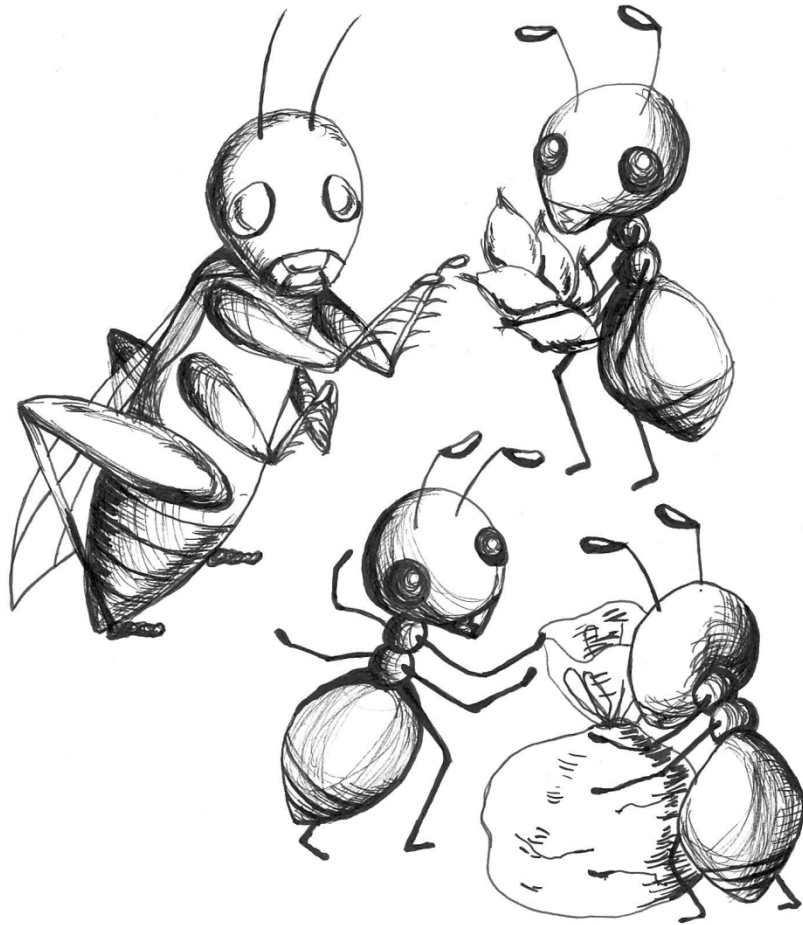


具体的に公的サービス(歳出)を削減するには？

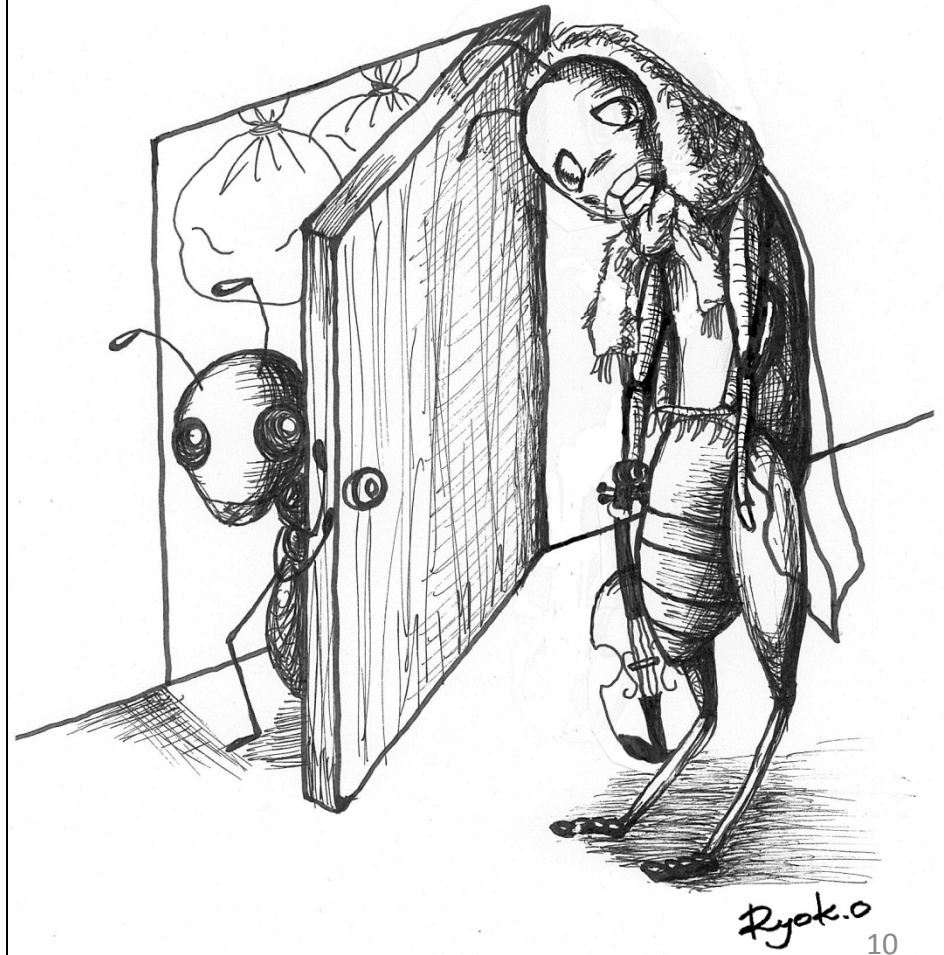
- 局面はプラスサム、ゼロサムではなく、**マイナスサム**
 - ⇒ 誰が見てもムダなものの削減だけでは不十分
 - ⇒ 「**絶対に必要**」な事業(純粹公共財＋価値判断)と「**あったらいいな**」事業をどのように**分別**したらよいのか？
- 将来の経済の生産力と国民の負担力との関係で、**「絶対に必要」**と思われるもの(価値判断)ですら、どこまで**政府**でまかないきれぬのか？
 - ⇒ **自助、共助に任せるもの**をどう**選別**すればよいのか？
- 政府のパフォーマンスの向上(**行政の革新**)、自助・共助の役割の拡大(**参加型社会**?)、技術革新などで、スキマをどのように補完？

イソップ寓話「アリとキリギリス」の結末2パターン

①



②



Ryok.o
10